

TRADITION

伝統

数世紀にわたり、パノニア地方でエステルハージー公爵家は文化的な功績を収めています。豪華な建築物を建てただけではなく、芸術家の為の寛大な支援者でもあり、情熱的な芸術収集家でもありました。遺された文化財産は、エステルハージー家の権力と名誉そして領主としての証です。

エステルハージー公爵家の豪華な宮廷の生活は非常に有名でした。マリア・テレジアはエステルハージーのワインを高く評価していました。このワインはマイルドな気候の中で豊かに育ったブドウからエステルハージーのワインセラーで醸造された高級ワインです。

世界的に有名な音楽家ヨーゼフ・ハイドンは1789年の書類に見られるように、給料の一部をワインで支払を受けていました。

贅沢に慣れたドイツの有名な詩人ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテはエステルハージーのコレクションの印象的な財宝を見て、今でも名言として伝えられている『エステルハージーの妖精の国』と表しています。

ワインの場合にも古くからの伝統があります。17世紀からエステルハージー家はブルゲンランド州でブドウ栽培とワイン醸造に携わっていました。1663年から1672年にパウル1世はアイゼンシュタットのお城を初期のバロックの宮殿にイタリア人の建築家カルレオーネにより建て替えました。それ以来、地下室には公爵家のワインが貯蔵されています。

1758年に赤ワインの為のブドウの栽培が始まりました。それは公爵家の管理長ヘルベヴィーラー伯爵にパウル2世アントン・エステルハージーの公爵夫人マリア・ルナティ・ヴィスコンティがブルグンドから来たピノ・ノアール種のブドウの木を栽培するように命令したと当時の書類に書かれています。

TRADITION



肖像画のコレクションはヨーロッパにおける最も興味深い、重要な文化財です。エスターハージー家は代々数百年に亘り、ブドウ栽培とワイン醸造に携わっています。